

めでいかすとり
Médicastre



「月山 早春 大井沢」

第59回鶴岡准看護学院入学式

日時：平成29年4月5日(水) 13：30～
場所：鶴岡地区医師会館 3階講堂

平成29年4月5日、第59回入学式が挙行され25名が入学しました。同じ目標を胸に不安と緊張の学生生活がスタートし、少しずつ笑い声が教室に響いている今日この頃です。知識・技術を習得することはもちろんですが、人間を対象とする看護職に必要な感謝の気持ちや思いやりの心を育む2年間を一緒に過ごしていきたいと思います。会員の先生方の温かいご指導とご協力をお願い致します。

阿部 幸子

入学式を迎えられたことを素直に嬉しく思います。必ず2年間やり遂げようと新たに決意を強くしました。自己紹介等でクラスメイトの話を聴き、良い方ばかりだと感じました。目指す目的は一緒に、クラスメイトの熱意を感じられることもあり私も「頑張らなければ。」と、とても良い刺激を受けています。一人ではないので頑張っていけると思います。初心を忘れずに素直な気持ちで前向きに成長していこうと思います。

五十嵐 一織

授業の複雑さやテストの多さなども聞き、勉強面はやはり大変であることを思い知り、たった2年しかない期間で精一杯頑張ろうと覚悟しました。大変なことも頑張ることも皆同じなので、クラス全員で支え合い個々の能力を高め合い一緒に准看護師の資格を取得するために頑張っていきたいです。



及川 正也

入学式を前にして、自分の心は不安だらけでした。看護は今まで学んできた内容と全くといっていいほど異なる内容であることがその理由です。何事も新しいことにチャレンジするためには膨大なエネルギーが必要であり、やり遂げられるのかといった不安もあります。しかし、自分で決めた事であり、自ら選んだ道である以上、様々な困難を乗り越えて准看護師への道を進んでいきたいと思っています。送り出してくれた人達に感謝し頑張ります。

坂井 邦子

夢を追いかけられるという幸せ、家族への感謝の気持ちを忘れずクラスの皆と助け合いながら楽しい学校生活を送って行きたいと思っています。子育ての両立、テスト勉強などの不安などまだまだ心配なことはありますが、自分と同じ環境で頑張っている仲間がいるのだと思うと私も「頑張らないと！」と強くなれる気がします。年齢は様々ですが、同じ目標に向かって2年後はクラスメイトと笑顔で卒業したいです。専門的な知識を身につけるのはもちろんですが人間的にも成長したいです。

新入会員の紹介

～平成 29 年 4 月 1 日入会～



氏 名：石 川 仁

生年月日：昭和35年11月27日

生まれた所・育った所：岐阜県大垣市

勤務先・診療科目：庄内保健所

出身校：山形大学 医学部医学科

趣味・特技：映画鑑賞

鶴岡地区医師会会員の皆さんへ一言：このたび庄内保健所に着任いたしました石川と申します。鶴岡地区医師会会員の皆様のお力をお借りし、管内の医療行政を円滑に進めてまいりたいと考えておりますので、どうか宜しくお願い申し上げます。

～平成 29 年 4 月 1 日入会～



氏 名：長 畑 仁 子

生年月日：昭和60年8月8日

生まれた所・育った所：新潟県長岡市関原町

勤務先・診療科目：荘内病院・放射線科

出身校：弘前大学

趣味・特技：ジョギング、ドライブ、ヨット

鶴岡地区医師会会員の皆さんへ一言：はじめまして。まだまだ未熟者ですが、ここ鶴岡で精進しながら鶴岡地区の医療に貢献できれば嬉しいです。よろしく願いいたします。

～平成 29 年 4 月 1 日入会～



氏 名：金 野 広 和

生年月日：平成3年4月24日

生まれた所・育った所：宮城県塩釜市

勤務先・診療科目：荘内病院

出身校：山形大学

趣味・特技：釣り、ゲーム

鶴岡地区医師会会員の皆さんへ一言：立派な医師になれるよう精一杯頑張ります。

～平成 29 年 5 月 1 日入会～



氏 名：北 楯 優 隆

生年月日：昭和51年4月26日

生まれた所・育った所：庄内町

勤務先・診療科目：鶴岡地区医師会 荘内地区健康管理センター

出身校：金沢医科大学

鶴岡地区医師会会員の皆さんへ一言：よろしく願いします。

～平成 29 年 5 月 1 日入会～



氏 名：今 井 玄 樹

生年月日：昭和56年11月2日

生まれた所・育った所：宮城県

勤務先・診療科目：鶴岡協立病院

出身校：弘前大学

趣味・特技：スキー

工一(A)会員になりました

—新規開業医紹介—

こころの花クリニック 石黒 慎



医師会の皆様、いつも大変お世話になっております。このたび、鶴岡第二中学校の傍である鶴岡市茅原に、こころの花クリニック（心療内科・皮膚科）を開業させていただいた石黒慎です。私は鶴岡南高等学校を卒業した後、栃木県にある獨協医科大学に進学いたしました。そこで精神科に入局を決めて以来、同大学 精神神経医学講座の下田和孝教授の下で10年ほど修行させていただいていました。その後、是非とも故郷である鶴岡で仕事がしたいと考え、山形大学医学部 精神神経医学講座の大谷浩一教授にお世話になり、鶴岡病院へ勤務させていただきました。当初は土地柄や考え方も異なる地域での患者さん方とのコミュニケーションに困ることもありました。神田秀人院長先生を始め、同僚の精神科の先生たちに支えられ何とか馴染むことが出来たのではないかと考えています。また、鶴岡病院からこころの医療センターへの移転も経験させていただきました。その際には荘内病院麻酔科の先生方と修正型電気けいれん療法の導入を通して、ご指導いただくことが出



来て大変勉強になったことを覚えています。そのような中、以前からの目標の一つであった開業という夢に向かって、このたび第一歩を踏み出させていただきました。

近年、ストレス社会と言われているように様々な症状の患者さんがいらっしゃいます。私は大学時代から不安障害、特にパニック障害における遺伝子多型と薬物の関連性を調査する研究を行っておりました。パニック障害とは、突然出現する強い不安感や過呼吸発作、特定の場所や環境への恐怖感のため、職務や日常生活に困難を生じる疾患です。原因は扁桃体におけるセロトニンの低下とされており、抗うつ薬や抗不安薬にて治療を行います。研究では、パニック障害の患者さんに抗うつ薬を投与して、遺伝子多型によってその治療奏効率に差異が出現するのかを調べるものでした。結果として、遺伝子多型により治療2週目から治療改善率が高い群と低い群に分かれました。継続治療8週目では最終的な治療奏効率は同じように推移していましたが、治療初期から改善率が高かった群

は、より円滑かつ良好な改善を得ることが出来ていました。遺伝子多型はSSRIを始めとした抗うつ薬の有効性に影響を与えるという結論でした。

しかし、実際の診療では患者さんの性格傾向やその環境も大きく関連しているため、不安や恐怖感を感じている患者さんに同じ治療を行っても同じ結果が出るとは限りません。治療には薬剤選択だけではなく、その患者さんに合わせた日常生活の指導などに柔軟な発想が求められ、オーダーメイドされた治療を行う必要があるという現実もありました。しかし、それこそが医師として最も興味深く、医師が治療に携わることには意義があるのだろう感じています。

我々精神科医は精神保健指定医という厚労省から指定された資格を持ち、ある意味特殊な立ち位置でもあります。指定医は、統合失調症の幻覚妄想状態やうつ病の希死念慮が切迫している状態、認知症で不穏を抑えることができない状態の患者さんを、半強制的に入院させて治療を行うことができます（基本的に患者さんの家族の同意は必要ですが）。指定医は、「入院の理由は正当であったのか」「希死念慮や衝動性は本当に抑えられたのか」「社会に戻しても大丈夫なのか」、そして「早く日常生活に戻ってあげたい」という葛藤と戦っております。以前よりも精神科医療への敷居は低くなった昨今ですが、精神科関連と思われる事件を見ると、良い意味でも悪い意味でも精神科医療と世間とのずれを感じます。まだまだ薄氷の上に成り立っている理解ではありますが、少しずつでも一助になっていきたいと考えています。また、今はこちらの医療センターの当直でしか手伝っておりませんが、鶴岡地区医師会の先生方に対して

も積極的な協力をしていきたいと考えております。

私の日常としましては、夫婦での育児に日々追われているところです。子供たちと一緒にプールでひと泳ぎすることは、大変ではありますが楽しいと思えることが嬉しいです。自身の気持ちのリラックスも大切かなと考える毎日です。最後に、まだ若輩者ですが、今後とも先生方の御指導・御鞭撻のほど、何卒よろしくお願い申し上げます。



マイペット&マイホビー

— 第 101 回 —

地元鶴岡で医療活動ができる喜びを感じながら

鶴岡協立病院 菅原 真樹

鶴岡協立病院で消化器内科医として働いております。早いことに鶴岡で働き始めてから10年が経過しました。途中、専門研修のために北海道、東京で勉強してきましたが、あっという間の10年でした。鶴岡に来てから今回で2回目の「めでいかすとる」への執筆となりますが、残念ながら私生活では以前と大きく変化はありません。



走るドクターとしての生活は相変わらずで、週に1、2回は10km程度のランニングをしています。現在でも山形県内で行われる多くの市民マラソン大会に出場しています。そんな中

で大きく変わったことといったら昨年度からスキーを始めたことです。上の子供が3年生になりスキーをしてみたいということで、私も中学生以来のスキーをすることになりました。実はカービングスキーの存在を知らず、スキーを買いに行ったスポーツ店で以前履いていたような長いスキーが無いのかと店員さんに聞いてしまいました。10年程前から今のスキーに変わったということでした。最初は全く別のスポーツをしている感覚でしたが、中学生まではそれなり

に滑っていたので徐々に慣れ、先日行われたバジテストで2級に合格することができました。できれば来年までには1級に合格できればいいなと思っています。1級というと不整地や急斜面でもある程度どんな滑りでもできるレベルです。この年になってコブや急斜面は怪我が心配ですが、一度やると決めたら諦めない性格なので1級に合格するまでは頑張ろうかなと思っています。そして、職場でスキー・スノーボード部を作るので部長になってくれないかという誘いがありました。もちろん快諾し、冬場のスキーはもちろん、1年を通じて花見や登山、月山への夏スキー、そして冬には合宿と称した泊まり込みのスキーツアーに行っています。写真は今年行った安比高原スキー場での一枚です。とても楽しく活動しています。

そして、ランニングの方では40歳を目前にして本当にスピードが落ちてきています。5000mではBest timeから約2分程遅くなり、1kmを3分半でおすのがかなりきつくなってきていま



す。以前と比べて明らかに練習量が減っており、駅伝で高校生や大学生と競っても勝てなくなってきました。残念ですがスピードランナーとしての引退が近いことを感じています。これからは後進の指導や楽しんで長い距離を走ったりと、今までと違う形で陸上に関わっていきたいと思っています。

忙しい中でも時間を見つけ、趣味や特技を通じて地域や職場の人達との関わりを大切にしていき、医師としては地域医療に貢献し、両親への感謝の気持ちを忘れず今後も親孝行を続けていけたらと思っています。



表 紙

「 月山 早春 大井沢 」

真家 興隆

かつて大井沢は北関東・会津方面から出羽三山参りの通り道。此処まで来ると、“お山が見えたぞー。”と、行者たちは喜びの声をあげた由。写真の峰々は左から湯殿山、姥ヶ岳、月山である。麓を流れる寒河江川畔に柳の芽はふくらんでも、お山はまだ雪の中であった。

(2017年3月26日、大井沢で撮影)

編 集 後 記

山形県内で麻疹の感染が確認されてから約2か月が過ぎました。発端はインドネシア・バリ島から帰国した直後に置賜地方を訪れた横浜市の20代男性で、ここから広まったとみられています。その後、感染が確認された方々は、発端者が滞在した自動車教習所やホテルで感染したと思われ、うち一人はこの発端者を診察した研修医でした。保健所、医療機関の皆さんは発熱の患者さんに対して慎重な対応をされていると思いますがなかなか完全に収束させることは難しいようです。

さて、今年度から胃がん予防目的のヘリコバクター・ピロリ感染症対策が中学2年生の希望者を対象に鶴岡市で始まりました。この事業は、日本ヘリコバクター学会が中心となり全国いくつかの自治体で始まりつつあります。山形県内では村山市で既に行われていて、同意者（検診を受ける生徒）はほぼ100%のようです。鶴岡市では議会での承認がぎりぎりになったため十分な周知ができずこまでの同意率には至っていませんが、対象外の3年生の保護者から適応拡大を希望する意見も出ているようです。なぜ中学生かと言いますと胃がんのほとんどが萎縮性胃炎から発生しますのでこの胃炎が起る前の段階で除菌をしたいこと、そして中学生以降で新たに感染することがほとんどないからです。

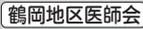
麻疹もピロリも同様ですが、みんなで真剣に取り組まなければ、感染を収束・撲滅させることは無理な話です。この考えが当たり前のように広まることを願っています。

(渡邊 秀平)

編集委員：三浦道治・小野俊孝・福原晶子・三科 武・佐久間正幸・木根淵智子・渡邊秀平

発行所：一般社団法人鶴岡地区医師会 山形県鶴岡市馬場町1-34

TEL 0235-22-0136 FAX 0235-25-0772 E-mail ishikai@tsuruoka-med.jp

ホームページにも掲載しております  URL <http://www.tsuruoka-med.jp>